



特集.5

道後温泉本館貸浴衣の再利用からつながる『輪』

松山社会福祉協議会
総務部 総務調整課 課長代理 堀江 素子

観光×福祉×環境でみんなの笑顔を

四国松山といえど「い湯と城と文学のまち」、中でも「道後温泉本館」は重要文化財にも指定された情緒溢れる観光スポットです。



本館で貸し出されている浴衣

本館2階・3階にある休憩室の利用では浴衣の貸し出しがあるのをご存知でしょうか。白い生地に紺色の湯玉や白鷺がシンプルにデザインされた浴衣です。日頃の疲れを温泉で癒し、湯上がりのひと時を満喫していただけるよう、古くから続く本館のおもてなしの一つです。お客様にご利用いただいた浴衣は毎回きれいにクリーニングして、次のお客様に貸出をしています。ほつれたり、色あせたりして、年間70〜80枚の浴衣が市

役所内の清掃用雑巾に使われた後、廃棄されていました。

お客様に出せなくなった浴衣を道後のために再度活用できないかという「松山市道後温泉事務所」の想い。そして、障がいのある方や高齢者の社会参加・就労の応援をしていきたいという「松山社会福祉協議会」の想いが重なり、『松山トリコ』が誕生しました。

創る「輪」楽し松山トリコ

『松山トリコ』は、松山・道後の観光PRとともに、障がいのある方や高齢者の社会参加・就労支援を目的として、松山社会福祉協議会、松山市道後温泉事務所、そして、地元クリエイターグループ「和



商品第一弾：おじゃみクッションの製作発表



新作：「湯あがりカバー」

音ファクトリー」が協働して取り組む、貸浴衣を再生利用したものづくりのプロジェクト名です。

松山トリコの「トリコ(Toriko)」とは、フランス語で「編んだもの」という意味です。道後温泉本館のシンボルマーク「湯玉」のもとに、松山で暮らす人々がひとつひとつ糸を編みこむように、交じり合いながら創る喜びの輪を広げていこう、また、松山の魅力の虜(とりこ)になる人を増やしていこうという願いを込めたネーミングです。

このプロジェクトは平成25年秋頃から始動し、平成26年9月「おじゃみクッション」を発表。現



新作：「湯あがりコースター」



在では、「湯玉トートバック」「紙（かみ）の湯カードケース」「湯上りカバー（手帳カバー）」「湯上りコースター」を加え、5つの商品ラインナップとなりました。道後温泉本館ならではということもさることながら、丁寧な手作りされた質感は、観光客の皆さんに大変好評です。

得意を活かせるものづくり

プロジェクト会議では、クリエイターの意見を取り入れながら、デザインや得意分野を活かせる仕組みづくりについて何度も議論を重ねます。



念入りな色染チェック(なな色工房)

現在、商品の開発には「和音ファクトリー」さん、浴衣の染色・裁断は障害のある方の就労継続支援事業所「なないろ工房」さん、縫製工程は高齢者グループ「和洋裁リメイク工房」のみなさんに担っていただいています。

なないろ工房さんの染めは回を重ねるごとにムラがなくなり、裁断や芯貼りは次の縫製作業がやりやすいようにと丁寧。リメイク工房さんでの縫製は趣味とはちがう緊張感とやりがいをもって。そして、和音ファクトリーさんではパッケージ包装しながら最終チェックを行

い、商品の品質保持に努めています。商品がお客様の手に届くまで、各分野が責任を持って、次の担い手へバトンタッチする「ものづくりの仕組み」が松山トリコの最大の魅力です。

高齢者や障がい者が作ることをセールのポイントとして押し出すのではなく、その商品自体が魅力的であることを第一に、製作に携わる人たちがプロ意識を持って取り組んでいます。結果として、クリエイターの方たちと障がいのある方、高齢者との交流も生まれ、松山での新たなつながりができました。

このように、想いが出た商品が、出来上がった商品、後温泉本館、または、松山市総合福祉センターで手にとりてみてください。



丁寧な縫製(リメイク工房)

「松山トリコ」から広がる輪

現在既に、松山トリコの取り組みから次の展開が生まれています。

平成27年12月に発売したカードケースの製作では、裏地にする布としてタンスで眠っている着物を募集したところ、たくさんの方に届けていただきました。生地によっては裏地にするにはもったいない着物や厚手の帯も集まりましたが、それらは和音ファクトリーさんの手で「や

さしい地域づくりを応援するクラッチバッグ」として生まれ変わっています。その製作工程はやはり障がいのある方や高齢者、そして子育て中のお母さんのお仕事となり、売上げの一部が地域福祉の推進のために寄付されます。

そして、次に考えているチャレンジは「終活」のお手伝いです。着物をいただきながら気づいたのは、「大切にしていた着物をできることなら子や孫に受け継いでもらいたい」という想いです。着物をクラッチバック等の小物にすることで、その想いは後世へとつながっていきます。

お客様に出せなくなった浴衣、タンスで眠ったままになっていた着物たちが、みんなのアイデアで甦り、一人ひとりの想いをつなぐ協働の輪ともなっています。

福祉とは誰もが笑顔になること。松山市社会福祉協議会では、「松山トリコ」の活動のほかにも企業や学校等と協働・連携しながら事業を展開しています。これからも、さまざまな分野のさまざまな想いをつなげていくことで、たくさんの方の笑顔を増やしていきたいです。



やさしい地域づくりを応援するクラッチバック